

<今回>333回目 2023年9月11(月)14時~17時 601会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p467、第5章九州王朝の領域と消滅 より

<前回>332回目(23-8-28)出席者8名

資料1) (~~2-3-1~~) 前回(23-8-28)のまとめ(清水)

2) 奈良新聞、8月11日第6面、紹介

3) 東京文京区役所での「古代に真実を求めて」刊行記念、古賀氏、正木氏講演会資料残部

4) 2024年2月までの読書会予定表

A 報告 次回は8月7日(月曜日)としていたが、酷暑のため、急遽中止とさせていただいた。一部の方には連絡不十分で、来場していただき、ご迷惑をおかけしました。

B 資料2 3回目の奈良新聞の古田説の掲載で、多元の幹事に新聞を送られてきたので、急遽配布した。鶴峰 戊申は本居宣長の弟子であり、九州の女酋長が中国大陸に列島を代表するかのような、近畿天皇家を僭称したとの師の説の裏付けを取るため、九州の地へ調査に出かけ、「襲国偽潜考」で九州年号と書かれた所から写したとして、いまの二中歴を紹介した。正木氏は史料をうまく紹介して、中国の歴代史書の中の倭国を紹介し、旧唐書の倭国伝、日本国伝の書き分けから王朝交代と、日本書紀の記事を基として、南九州勢力の討伐を記していることから王朝交代の説を唱えている。712年の隼人討伐戦(名前はないが1280余人に恩賞)、720年の隼人の反乱(大伴旅人を大將軍として派遣1400人余を死虜)。古事記、日本書紀の発行年次で覚えやすい。

が

C 読書 p467 第5章九州王朝の領域と消滅 から

- (1) 九州王朝の黄昏 百済王子の人質と九州王朝。新羅本紀のみに記す倭国と日本国の変更は670年という。中国史書にはない。(倭国が自主的に日本国と名称変更したか、九州倭国が近畿日本国に併合されたか)
- (2) 白村江の戦は663年(百済滅亡の時)、高句麗は668年滅亡。日本書紀では天智2年(663年)2万7千人で新羅を打たしむと書いている。三国史記で倭国と百済が同盟。(A) 倭船千艘白沙にあり、新羅本紀文武王11年(671年)の報告の一節(B) 百済王余豊2年(663年)高句麗と倭国に(応援依頼の)遣使。陸軍を帥いて仁師、仁願、羅王金法敏が進む。倭人と白村江で戦う。4戦して皆克ち、400艘を焼く。
- (3) A は671年だが日本国とは戦争を行っていない。B は当然670年以前だから倭国だ。日本書紀には舒明紀631年百済王義慈、王子豊章を入れて質となす。これは不思議な記事で、百済本紀には653年倭国と通好となっている。本の表のとおり、22年の移動記事がある。
- (4) 筑紫の君薩夜麻について、日本書紀には(1)671年、郭務悰らの先駆けとなって、4人帰ってくる。沙門道久、韓島勝沙婆、布師首磐。(2)30年後690年、筑後の軍丁上陽メ郡大伴部博麻が先の4人を返すために自ら奴隷に身を売り、やっと帰ってきたことを持統が大々的にほめて莫大な褒美を与えて、これ見よがしに称賛していることを書いている。この時の人名が異なることを、岡田氏が指摘した。土師連富ド、氷連老、弓削連元寶の兄、薩夜馬は薩夜麻のマの文字が異なるだけ。この記事はどう解釈したらよいか。

29月25日(月)14時から17時 602会議室

10月9日(月)14時から17時 602会議室